

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 69 問で解答時間は正味 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例 1)、(例 2)の問題では a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 1)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 2)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

- | | |
|--|---|
| <p>(例 1) 101 応招義務を規定しているのはどれか。</p> <ul style="list-style-type: none"> a 刑 法 b 医療法 c 医師法 d 健康保険法 e 地域保健法 | <p>(例 2) 102 医師法で医師の義務とされているのはどれか。2 つ選べ。</p> <ul style="list-style-type: none"> a 守秘義務 b 応招義務 c 診療情報の提供 d 医業従事地の届出 e 医療提供時の適切な説明 |
|--|---|

(例 1)の正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e

答案用紙②の場合、

101	<input type="radio"/> a		101	<input type="radio"/> a
	<input type="radio"/> b			<input type="radio"/> b
	<input type="radio"/> c	→		<input checked="" type="radio"/>
	<input type="radio"/> d			<input type="radio"/> d
	<input type="radio"/> e			<input type="radio"/> e

(例 2)の正解は「b」と「d」であるから答案用紙の **(b)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
102	<input type="radio"/> a	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> c	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> e

答案用紙②の場合、

102	<input type="radio"/> a		102	<input type="radio"/> a
	<input type="radio"/> b			<input checked="" type="radio"/>
	<input type="radio"/> c	→		<input type="radio"/> c
	<input type="radio"/> d			<input checked="" type="radio"/>
	<input type="radio"/> e			<input type="radio"/> e

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d へき地で勤務する義務
- e 臨床研修を受ける義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「e」であるから答案用紙の **a** と **c** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、		答案用紙②の場合、	
103	<input checked="" type="radio"/> a <input checked="" type="radio"/> b <input checked="" type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input type="radio"/> e	103	<input type="radio"/> a <input type="radio"/> 103
	↓	<input checked="" type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/> b
103	<input type="radio"/> a <input checked="" type="radio"/> b <input type="radio"/> c <input checked="" type="radio"/> d <input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/> c →	<input type="radio"/> d
		<input checked="" type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/> d
		<input type="radio"/> e	<input type="radio"/> e

(3) 選択肢が6つ以上ある問題については質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査で人口10万人当たりの医師数が最も少ないのはどれか。

- a 北海道
- b 青森県
- c 茨城県
- d 埼玉県
- e 京都府
- f 和歌山県
- g 鳥取県
- h 徳島県
- i 佐賀県
- j 沖縄県

(例4)の正解は「d」であるから答案用紙の **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、											答案用紙②の場合、																					
104	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	104	104	(a)	(a)	(b)	(b)	(c)	(c)	(d)	(d)	(e)	(e)	(f)	(f)	(g)	(g)	(h)	(h)	(i)	(i)	(j)	(j)

↓

→

- 1 在宅ケアのうち医師の指示書が必要なのはどれか。
 - a 自宅改修
 - b 訪問看護
 - c 訪問介護
 - d 通所介護
 - e 通所リハビリテーション

- 2 民法で規定されているのはどれか。
 - a 注意義務
 - b 療養指導義務
 - c 処方箋交付義務
 - d 診断書作成義務
 - e 診療録保存義務

- 3 高度救命救急センターで受け入れるべきなのはどれか。
 - a 下肢の骨折
 - b 肩関節脱臼
 - c 急性虫垂炎
 - d 重症広範囲熱傷
 - e 十二指腸潰瘍穿孔

4 我が国の政府開発援助(ODA)による保健医療協力について誤っているのはどれか。

- a 機材を供与する。
- b 専門家を派遣する。
- c 金銭的な利益を得る。
- d 研修員を受け入れる。
- e 自助努力を支援する。

5 母子保健法による母子保健事業として行われていないのはどれか。

- a 母子健康手帳の交付
- b 乳児医療の公費による助成
- c 未熟児の訪問指導
- d 1歳6か月児健康診査
- e 3歳児健康診査

6 症例対照研究と比較したコホート研究の特徴はどれか。

- a 調査期間が短い。
- b 研究に費用がかからない。
- c 疾患発生の有無を追跡する。
- d 寄与危険度が計算できない。
- e まれな疾患の研究に適する。

7 1歳6か月児健康診査に含まれないのはどれか。

- a 運動発達の状況
- b 歯科健康診査
- c 視力の測定
- d 身体発育の状況
- e 予防接種の実施状況

8 海外で未知の感染症が発生し、人から人への感染が疑われる症例が初めて報告された。この感染症は発熱を主な症状とし、致死率が高いとの情報がある。

症例報告があった地域から帰国し、自宅に帰った者に対し健康監視を行う場合の機関はどれか。

- a 検疫所
- b 保健所
- c 入国管理局
- d 市町村保健センター
- e 第一種感染症指定医療機関

9 アレルギー物質を含む食品の原材料表示が義務付けられていない品目はどれか。

- a えび
- b 小麦
- c そば
- d 米
- e 乳

10 我が国において大気汚染物質のうち環境基準の達成率が最も低いのはどれか。

- a 一酸化炭素
- b 光化学オキシダント
- c 二酸化硫黄
- d 二酸化窒素
- e 浮遊粒子状物質

11 成人男性の胸部 CT(別冊No. 1)を別に示す。

各部位の解剖名で誤っているのはどれか。

- a ①：右気管支
- b ②：左上葉気管支起始部
- c ③：左下肺静脈
- d ④：食道
- e ⑤：葉間胸膜

別 冊

No. 1

12 大動脈から直接分枝する動脈はどれか。

- a 総肝動脈
- b 左総頸動脈
- c 右椎骨動脈
- d 右鎖骨下動脈
- e 左外腸骨動脈

13 正常腎糸球体の腎生検組織のPAS染色標本(別冊No. 2)を別に示す。

糸球体上皮細胞(ポドサイト)はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊

No. 2

14 IV型アレルギーに分類されるのはどれか。

- a 喘 息
- b 蕁麻疹
- c アナフィラキシー
- d アレルギー性鼻炎
- e アレルギー性接触皮膚炎

15 妊娠高血圧症候群のために帝王切開を受けた女性。

分娩後3か月の時点で、異常所見と考えられるのはどれか。

- a 尿蛋白3+である。
- b 乳房に緊満がある。
- c 月経が発来していない。
- d 血圧が136/84 mmHg である。
- e 妊娠前の体重に復していない。

16 注意欠陥多動性障害にみられる症状のうち、注意欠陥と考えられる訴えはどれか。

- a 「順番を待つことが苦手だ」
- b 「ささいなことで気が散りやすい」
- c 「椅子に座っていても手足を動かしてしまう」
- d 「小学3年生になるのに自分の名前が書けない」
- e 「学校の持ち物が気になり何度も確認してしまう」

17 家系図(別冊No. 3)を別に示す。

この疾患の遺伝形式はどれか。

- a 常染色体優性遺伝
- b 常染色体劣性遺伝
- c X連鎖優性遺伝
- d X連鎖劣性遺伝
- e Y連鎖遺伝

別冊 No. 3

18 自己免疫疾患と徴候の組合せで正しいのはどれか。

- a 皮膚筋炎 ————— 環状紅斑
- b リウマチ熱 ————— Raynaud 現象
- c 全身性硬化症〈強皮症〉 ————— ヘリオトロープ疹
- d 全身性エリテマトーデス〈SLE〉 ————— Gottron 徴候
- e 若年性特発性関節炎〈JIA〉〈全身型〉 ————— 弛張熱

19 胎児期の放射線被ばくの影響として閾(しきい)線量が存在しないのはどれか。

- a 奇 形
- b 低身長
- c 小児がん
- d 胎児死亡
- e 精神発達遅滞

20 死後経過時間の推定に用いられるのはどれか。

- a 溢血点
- b 血液凝固
- c 瘢痕収縮
- d 直腸内温度
- e 膀胱内尿量

21 悪性リンパ腫のリンパ節の所見として典型的なのはどれか。

- a 圧 痛
- b 自発痛
- c 弾性硬
- d 熱 感
- e 癒 着

22 下肢の区画〈コンパートメント〉症候群の急性期の症候でないのはどれか。

- a 疼 痛
- b 錯感覚
- c 皮膚萎縮
- d 他動伸展時痛
- e 区画内圧上昇

23 男児の二次性徴で最初に認められるのはどれか。

- a 陰 毛
- b 腋 毛
- c 声変わり
- d 鼻の下の髭
- e 精巣容積の増大

24 血清補体価(CH₅₀)が低下しないのはどれか。

- a 悪性関節リウマチ
- b 急性糸球体腎炎
- c クリオグロブリン血症
- d 全身性エリテマトーデス〈SLE〉
- e リウマチ性多発筋痛症

25 白内障手術の術前に、眼内レンズの度の決定のために、角膜曲率測定その他に行う検査はどれか。

- a 隅角検査
- b 暗順応検査
- c 眼軸長検査
- d 蛍光眼底造影
- e 両眼視機能検査

26 経口摂取が順調な新生児のマススクリーニングの実施時期で正しいのはどれか。

- a 出生直後
- b 生後 24 時間
- c 生後 48 時間
- d 生後 4～7 日
- e 生後約 1 か月

27 単位重量あたりのカリウム含有量が最も多いのはどれか。

- a 上白糖
- b 食パン
- c チーズ
- d バター
- e バナナ

28 病院食のうち固形成分が最も少ないのはどれか。

- a 重 湯
- b 五分粥
- c 三分粥
- d 全 粥
- e 七分粥

29 全身麻酔で意識レベルを下げるために使用するのはどれか。

- a アトロピン
- b リドカイン
- c ベクロナウム
- d チオペンタール
- e ネオスチグミン

30 保健所の業務でないのはどれか。

- a 難病に関する相談
- b 障害児の保健相談
- c 医療保険に関する審査事務
- d 人口動態統計に関する事務
- e 建築物や住宅の衛生に関する事務

- 31 電気けいれん療法について正しいのはどれか。
- a 高齢者に行ってはならない。
 - b 重症うつ病は適応疾患である。
 - c 脳神経外科医の協力が必要である。
 - d 最近は行われることがまれである。
 - e 患者やその保護者の同意なしに実施できる。
- 32 公費医療について規定されているのはどれか。2つ選べ。
- a 健康増進法
 - b 生活保護法
 - c 母体保護法
 - d 労働安全衛生法
 - e 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律〈感染症法〉
- 33 正しいのはどれか。2つ選べ。
- a ブラは肺底部に好発する。
 - b 横隔膜は最大の呼吸筋である。
 - c 迷走神経は肺門前方を走行する。
 - d 肋間動静脈は肋骨下縁を走行する。
 - e 縦隔は壁側胸膜と臓側胸膜との間である。

- 34 体内の鉄動態について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 鉄は2価イオンの形で吸収される。
 - b ヘプシジンは鉄の吸収を促進する。
 - c 腸管からの鉄吸収率は50%を超える。
 - d Hb 15 g/dlの血液 10 mlには10 mgの鉄が含まれる。
 - e 血清鉄はトランスフェリンと結合して細胞に輸送される。
- 35 糖質コルチコイドの作用はどれか。2つ選べ。
- a 糖新生の促進
 - b リンパ球の増加
 - c 筋肉における蛋白同化
 - d 下垂体 ACTH 分泌の抑制
 - e 腎尿細管におけるカルシウム再吸収促進
- 36 児頭の固定を妨げるのはどれか。2つ選べ。
- a 狭骨盤
 - b 過長臍帯
 - c 頸部筋腫
 - d 前置血管
 - e 羊水過少症

37 放射線治療の感受性が高いのはどれか。2つ選べ。

- a 耳下腺腺癌
- b 甲状腺乳頭癌
- c 鼻腔悪性黒色腫
- d 上咽頭扁平上皮癌
- e 中咽頭悪性リンパ腫

38 歩行障害のため普段は車椅子で職場へ通勤している人が、車椅子が故障したため仕事を休んだ。

この人の生活機能を国際生活機能分類で評価した場合、普段とは評価が異なる項目はどれか。3つ選べ。

- a 活動制限
- b 環境因子
- c 機能障害
- d 参加制約
- e 身体構造

39 胸腔ドレナージが行われるのはどれか。3つ選べ。

- a 膿胸
- b 肺気腫
- c 血気胸
- d 肺水腫
- e 乳び胸

40 48歳の男性。警察官に伴われて来院した。2週間前から公園で寝泊まりしているところを目撃されていた。2日前から意味不明の言動が認められるようになったが、他人に危害を加える様子はなかった。公園の管理者が通報し受診となった。受診時、幻覚妄想状態を示し、十分な疎通性が得られず、入院加療が必要と考えられた。体温 36.8℃。脈拍 88/分、整。血圧 136/88 mmHg。入院の必要性を説明したが了解を得られない。所持品から遠隔地にある医療機関の診察券が発見され身元は判明した。配偶者がいるようだが連絡がとれない。

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律〈精神保健福祉法〉に基づく入院として適切なものはどれか。

- a 応急入院
- b 措置入院
- c 任意入院
- d 医療保護入院
- e 緊急措置入院

41 7歳の女児。顔面と頭部の皮疹を主訴に来院した。2日前から顔面、頭部および体幹に数 mm 大の多数の皮疹が出現してきた。体温 38.0℃。児の前胸部の皮疹の写真(別冊No. 4)を別に示す。

保護者に対する説明で適切なものはどれか。

- a 「3日後から登校してください」
- b 「解熱した翌日から登校してください」
- c 「解熱して3日たったら登校してください」
- d 「かさぶたが全てとれてから登校してください」
- e 「皮疹が全てかさぶたになってから登校してください」

別 冊
No. 4

42 34歳の初妊婦。妊娠30週0日。妊婦健康診査のため来院した。母児に異常を認めない。本人は産前休業を希望している。

説明として正しいのはどれか。

- a 「2週間からは勤務ができません」
- b 「2週間からは産前休業できます」
- c 「4週間からは勤務ができません」
- d 「4週間からは産前休業できます」
- e 「明日からでも産前休業できます」

43 30歳の初産婦。妊娠40週5日。10分周期の下腹部緊満を主訴に来院した。これまでの妊娠経過に異常を認めなかった。脈拍72/分、整。血圧124/64 mmHg。内診で先進部は小泉門で母体の右後方に触れる。子宮口4 cm 開大、展退度80%、児頭下降度SP + 1 cm。子宮口の位置は中央、硬さは軟である。未破水である。尿所見：蛋白(－)、糖(－)。ドプラ聴診器による胎児心拍数は150/分である。

次に行うのはどれか。

- a 導尿
- b 外陰消毒
- c 心電図検査
- d 分娩監視装置装着
- e パルスオキシメーター装着

44 生後1日の新生児。在胎39週、3,010gで出生した。生後5分のApgarスコアは8点であった。糖水を与えた後で少量の嘔吐が2回認められた。生後20時間で排泄された便の写真(別冊No. 5)を別に示す。

この便から考えられるのはどれか。

- a 胎便
- b 移行便
- c 胆道疾患
- d 消化管出血
- e 消化管閉鎖

別冊

No. 5

45 1歳6か月の男児。健康診査のため来院した。離乳は完了し、ミルクを1日2回与えられている。親の言うことを理解し、発語は4、5語である。1歳2か月で独り歩きを始め、現在は小走りができる。意識は清明。身長80cm、体重16.0kg。頭囲47cm、胸囲48cm。咽頭に異常を認めない。歯は12本萌出している。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、右季肋下に肝を0.5cm触知する。脾を触知しない。

この児で異常なのはどれか。

- a 運動発達
- b Kaup指数
- c 肝触知
- d 言語発達
- e 萌出歯数

46 58歳の男性。2日前からの左膝関節痛と両足関節痛とを主訴に来院した。アルコール性肝障害を指摘され通院中である。意識は清明。体温37.0℃。脈拍92/分、整。血圧126/72 mmHg。呼吸数20/分。左膝関節に熱感、腫脹および圧痛があったため膝関節穿刺を行った。穿刺で得られた関節液の写真(別冊No. 6A)と顕微鏡写真(無染色)(別冊No. 6B)とを別に示す。関節液の白血球数は2,125/ μ l、Gram染色で細菌を認めない。

診断はどれか。

- a 痛風
- b 偽痛風
- c 化膿性関節炎
- d 変形性関節炎
- e 反応性関節炎

別冊 No. 6 A、B

47 4歳の女児。浮腫を主訴に来院した。1週前から顔面の浮腫に両親が気付いていたという。尿量が少ないことも気になっていたという。2か月前に測定した体重は15.0kgであったが、本日は18.7kgである。体温36.6℃。心拍数104/分。血圧86/70mmHg。呼吸数16/分。尿所見：蛋白4+、糖(-)、潜血(-)、沈渣に異常を認めない。血液所見：赤血球480万、Hb14.8g/dl、Ht48%、白血球7,300(分葉核好中球51%、好酸球1%、単球4%、リンパ球44%)、血小板40万。血液生化学所見：総蛋白4.9g/dl、アルブミン1.9g/dl、尿素窒素15mg/dl、クレアチニン0.3mg/dl、総コレステロール300mg/dl、AST15IU/l、ALT15IU/l、Na130mEq/l、K4.0mEq/l、Cl95mEq/l。入院の上、治療を行うこととなった。

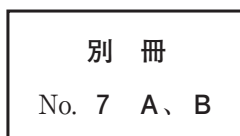
保護者への説明で適切なのはどれか。

- a 「高蛋白食が必要です」
- b 「塩分制限は必要ありません」
- c 「入院中は絶対安静が必要です」
- d 「副腎皮質ステロイドの治療が必要です」
- e 「体重が元に戻るまで利尿薬が必要です」

48 55歳の女性。口腔粘膜疹と全身の皮疹とを主訴に来院した。2か月前から口腔粘膜にびらんが出現した。1か月前から全身に径3 cmまでの水疱が多発してきた。皮疹の生検組織の蛍光抗体直接法で表皮細胞間にIgGとC3の沈着を認める。口腔内粘膜疹の写真(別冊No. 7A)と皮疹の生検組織のH-E染色標本(別冊No. 7B)とを別に示す。

診断はどれか。

- a 接触皮膚炎
- b 尋常性天疱瘡
- c 疱疹状皮膚炎
- d 水疱性類天疱瘡
- e 後天性表皮水疱症



49 42歳の男性。物が二重に見えることを主訴に来院した。1か月前に交通事故に遭い、その後、複視が出現した。前眼部、中間透光体および眼底に異常を認めない。視力は右1.0(矯正不能)、左1.0(矯正不能)。

診断に有用な検査はどれか。

- a 光覚検査
- b Hess 赤緑試験
- c Schirmer 試験
- d 網膜電図(ERG)
- e 光干渉断層法(OCT)

50 30歳の既婚女性。下腹部痛を主訴に来院した。昨夜から下腹部に軽度の痛みを感じていた。少量の性器出血を伴っているという。最終月経は約7週前。月経周期は30～60日、不整。経腔超音波検査で子宮と卵巣とに異常を認めない。

対応として適切なのはどれか。

- a 妊娠反応
- b 子宮内膜組織診
- c 基礎体温の測定
- d 2週後の来院を指示
- e プロゲステロンの投与

51 81歳の女性。75歳ころから記銘力の低下がみられるようになり、物忘れ外来でAlzheimer型認知症と診断された。薬物療法や記憶回復訓練を受けたものの認知機能低下は進行し、2年前から介護保険施設に入所している。約1か月前から鏡に映った自分に挨拶し困惑した表情を浮かべていることに施設の職員が気づき、定期受診の際に主治医に相談した。

この患者に1か月前からみられる症状はどれか。

- a 失行
- b 失認
- c 意識障害
- d 注意障害
- e 遂行機能障害

52 31歳の2回経妊1回経産婦。妊娠39週2日。陣痛発来のため入院した。分娩は順調に進行し、入院3時間後に子宮口8cm開大、未破水である。規則的な陣痛を認めており、胎児心拍数パターンに異常を認めない。胎児心拍数陣痛図(別冊No. 8 ①～⑤)を別に示す。

このときの胎児心拍数陣痛図として考えられるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



53 28歳の女性。昨夜からの悪寒、嘔吐および背部痛を主訴に来院した。2日前から頻尿と排尿痛とがある。既往歴に特記すべきことはない。身長156cm、体重54kg。体温38.4℃。脈拍96/分、整。血圧120/82mmHg。右肋骨脊柱角に叩打痛を認める。尿所見：蛋白2+、沈渣に赤血球2～5/1視野、白血球多数/1視野。血液所見：赤血球410万、Hb13.2g/dl、Ht38%、白血球14,000(桿状核好中球7%、分葉核好中球62%、好酸球2%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球22%)、血小板23万。血液生化学所見：尿素窒素19mg/dl、クレアチニン1.0mg/dl。CRP10mg/dl。

尿沈渣の塗抹標本で原因菌の推定に有用なのはどれか。

- a Gram染色
- b Grocott染色
- c May-Giemsa染色
- d Papanicolaou染色
- e Ziehl-Neelsen染色

54 54歳の男性。息切れと皮下の出血斑とを主訴に来院した。生来健康で1年前の会社での健康診断では異常はなかった。4か月前から階段で息切れを自覚するようになり、2か月前に顔色不良を指摘された。1週前に下腿前面に赤紫色の小斑点が多発しているのに気づき受診した。血液所見：赤血球160万、Hb 5.6 g/dl、Ht 17%、網赤血球0.4%、白血球2,300(桿状核好中球10%、分葉核好中球15%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球68%)、血小板0.9万。骨髓生検で著明な低形成を認める。

この患者で予想される症候はどれか。

- a 脾腫
- b 心雑音
- c 嚥下障害
- d 両上肢感覚障害
- e 頸部リンパ節腫脹

55 25歳の男性。吐血を主訴に来院した。友人と酒を飲み、トイレで嘔吐した。最初の吐物は食物残渣であったが、2、3回嘔吐を繰り返すうちに血液を嘔吐した。便器が赤くなるほどの量だったので驚いて受診した。体温36.2℃。脈拍88/分。血圧128/72 mmHg。眼瞼結膜に異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。腸雑音は軽度亢進している。直腸指診で異常を認めない。

診断に最も有用な検査はどれか。

- a 腹部CT
- b 腹部血管造影
- c 上部消化管造影
- d 腹部超音波検査
- e 上部消化管内視鏡検査

56 79歳の男性。息切れと胸痛とを主訴に来院した。生来健康であったが、5年前から心雑音を指摘されていた。1か月前から坂道や階段歩行で息切れと胸痛とを自覚したため受診した。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧118/72 mmHg。下腿に浮腫を認めない。聴診で収縮期駆出性(収縮中期性)雑音を聴取する。心エコーで大動脈弁の高度石灰化を認め、大動脈弁口面積は0.8 cm²であった。人工弁の写真(別冊No. 9 ①、②)を別に示す。

この患者の手術治療における2種類の人工弁に関する説明で最も適切なのはどれか。

- a 「あなたには①の弁をお勧めします」
- b 「②の弁は毎年交換する必要があります」
- c 「①の弁は②の弁より弁機能に優れています」
- d 「②の弁はアレルギー反応に関する術前精査が必要です」
- e 「①の弁は手術後生涯にわたりワルファリンの内服が必要です」

別 冊 No. 9 ①、②

57 65歳の男性。左上下肢の脱力を主訴に来院した。1週前から左上下肢の脱力が時々出現し、5分ほどで改善していた。受診時、神経学的な診察で異常所見を認めない。体温 36.5℃。脈拍 60/分、整。血圧 140/72 mmHg。心電図で異常を認めない。頭部単純 MRI で異常を指摘され検査目的で入院となった。脳血管造影の右総頸動脈側面像(別冊No. 10)を別に示す。

この患者に血管内治療を行う場合に適切なのはどれか。

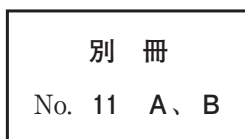
- a 硬化療法
- b 動脈塞栓術
- c 血栓溶解療法
- d ステント留置術
- e フィルター留置術

別冊
No. 10

58 21歳の男性。プールサイドで転倒して右の側頭部を強く打ち、創部から少量の出血がみられるため来院した。意識は清明で神経学的異常はみられなかった。右の側頭部に頭皮挫創があり創処置を行った。頭部エックス線写真(別冊No. 11A)と頭部単純CT(別冊No. 11B)を別に示す。創傷部から少量の出血があり、再度創傷処置を行っていたところ、意識レベルが急速にJCSⅢ-100に低下し、左上下肢麻痺、左瞳孔の散大および対光反射の消失がみられた。

まず行うべきなのはどれか。

- a 脳波検査
- b 腰椎穿刺
- c 経過観察
- d 頭部単純CTの再検
- e 頭部MRIの拡散強調像撮像



59 76歳の女性。1人暮らし。糖尿病で血糖コントロールのため入院中である。高齢者総合機能評価(CGA)を実施して退院後の療養生活について検討することになった。

インスリン自己注射の導入にあたり最も重視すべき項目はどれか。

- a 聴力
- b 認知機能
- c 排尿機能
- d 歩行能力
- e BMI(Body Mass Index)

次の文を読み、60～62の問いに答えよ。

82歳の男性。意識消失のため搬入された。

現病歴 : 本日、ビールを飲みながら夕食をとった後、入浴のため食卓から立ち上がり歩き始めたところ、突然意識を消失し倒れた。驚いた妻が駆けつけ大声で呼びかけたところ、すぐに意識は清明となった。明らかな外傷やけいれんはなかったという。最近、椅子から立ち上がる時にふわっとすることがよくあったという。

既往歴 : 高血圧症のためカルシウム拮抗薬を内服している。1か月前から持病の腰痛症悪化のため非ステロイド性抗炎症薬を内服している。

生活歴 : 長男夫婦と同居。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。体温 36.8℃。脈拍 88/分、整。血圧 132/68 mmHg。呼吸数 18/分。SpO₂ 95% (room air)。瞳孔径は両側 3 mm で対光反射は正常である。眼瞼結膜はやや蒼白である。眼球結膜に黄染を認めない。口腔内に出血を認めない。舌と粘膜とに損傷を認めない。項部硬直を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。咽頭に腫脹と発赤とを認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腹部に圧痛を認めない。四肢に浮腫、チアノーゼ、ばち指および皮疹を認めない。

検査所見 : 心電図に異常を認めない。

60 意識消失の原因として最も考えられるのはどれか。

- a 不整脈
- b てんかん
- c 状況性失神
- d 起立性低血圧
- e 迷走神経反射

61 追加すべき診察はどれか。

- a 直腸指診
- b 指鼻試験
- c 棘突起叩打
- d Babinski 徴候
- e 上肢 Barré 試験

62 追加した診察では異常を認めなかった。

意識消失の原因を診断するためにまず行うべき検査はどれか。

- a 脳波
- b 頭部CT
- c 心エコー検査
- d Holter 心電図
- e 立位での血圧測定

次の文を読み、63～65の問いに答えよ。

25歳の男性。気分不良を主訴に来院した。

現病歴 : 官庁街近くのレストランで昼食をとっていたところ「液体のようなものがまかれた」という声がして、レストラン内で数人が倒れた。気分が悪くなったためレストランから飛び出し、徒歩で近くの病院を受診した。会話は可能であり、目の前が暗く感じ、鼻水が止まらなると訴えている。

63 病院の受付から報告を受け、患者を他の患者と接触のない救急室の一室に隔離するよう指示した。

最初に行うべきなのはどれか。

- a 警察に問い合わせる。
- b 動脈血ガスを測定する。
- c バイタルサインをチェックする。
- d 症状と発症時の状況とを詳しく聞く。
- e 患者に服を脱いでもらい、密封できる袋に詰めてもらう。

64 患者を救急室で診察し以下の情報を得た。

既往歴 : 幼少時からアレルギー性鼻炎がある。

生活歴 : 独身。1人暮らし。会社員。喫煙は20本/日を5年間。飲酒はビール500ml/日を5年間。

家族歴 : 母親が高血圧症で内服加療中。

現症 : 意識は清明。頭痛と悪心とを訴えている。体温36.8℃。脈拍108/分、整。血圧140/90 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂92%(room air)。瞳孔は高度に縮瞳し、対光反射は消失している。鼻汁、流涎および発汗がみられる。四肢に運動麻痺を認めない。腱反射の異常を認めない。呼吸音に異常を認めない。心雑音を聴取しない。

この患者で予想される血液生化学所見はどれか。

- a CK 高値
- b 血糖低値
- c ALT 高値
- d クレアチニン高値
- e コリンエステラーゼ<ChE>活性の低下

65 まず行うべき治療はどれか。

- a アトロピンの静脈内投与
- b ジアゼパムの筋肉内投与
- c アドレナリンの静脈内投与
- d ネオスチグミンの内服投与
- e 亜硝酸ナトリウムの静脈内投与

次の文を読み、66～68の問いに答えよ。

17歳の男子。交通外傷のため搬入された。

現病歴 : 乗っていた乗用車が対向車と衝突し、受傷したため搬入された。助手席に座りシートベルトをしていたという。

現 症 : 頭部挫創から軽度の出血を認める。閉眼しており、痛み刺激を加えても開眼しない。顔面蒼白で冷汗を認める。口唇に裂創があり、出血した血液が口腔内に流れ込んでいる。呼吸は促迫しており、頰脈を認める。両上肢を触ると冷たく、湿っている。右下腿は明らかに変形している。病院到着直後に輸液と酸素投与とが実施されている。

66 優先的に行うべきなのはどれか。

- a 輸 血
- b 口腔内吸引
- c 四肢の加温
- d 右下腿の固定
- e 頭部創の止血

67 現 症 : 体温 35.4℃。モニター上の心拍数 160/分。右上肢血圧 60/40 mmHg。呼吸数 40/分。SpO₂ 90 % (リザーバー付マスク 10 l/分酸素投与下)。左前胸部は変形し、打撲痕を認め膨隆している。同部位に握雪感を認める。

身体所見としてみられないのはどれか。

- a 気管の左方偏位
- b 左胸部の呼吸音低下
- c 打診での左胸部鼓音
- d 右と同程度の左上肢血圧
- e capillary-refilling time 延長

68 血清電解質は、Na⁺ 135 mEq/l、Cl⁻ 101 mEq/l、HCO₃⁻ 18 mEq/lであった。

アニオンギャップはどれか。

- a 12 mEq/l
- b 16 mEq/l
- c 25 mEq/l
- d 34 mEq/l
- e 52 mEq/l

69 Apgar スコアの項目に含まれないのはどれか。

- a 体 温
- b 呼 吸
- c 筋緊張
- d 心拍数
- e 皮膚色
- f 刺激に対する反射

